別紙様式

令和４年　３月　10 日

教育長　様

校番 22　　吉田　高等学校長
（　全日制　課程）

「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る
学科等の特色を生かしたカリキュラム開発研究指定校
令和３年度　実施報告書

１　学校の教育目標等

(1) 教育目標

県内唯一の学科を設置する高等学校として，「誠実・忍耐・協和」の校訓のもと，確かな学力と寛容な精神を培い，地域が有する資源を活かしながら，社会に貢献できる人材を育成する。

(2) 育てたい生徒像及び学校として育成を目指す資質・能力

ア　育てたい生徒像

自らの生き方や社会に関する課題について，解明する方法を探り出し，究め，これからの社会に貢献する生徒

イ　育成を目指す資質・能力

（ア）課題を理解する力
（イ）質の高い情報を集め，分析・整理する力
（ウ）根拠を持って解決のための構想を立てる力
（エ）考えた結論を他者に伝えることができる力
（オ）課題解決を目指して主体的・協働的に真理の追究を継続する力

(3) 学科等の特色

ア　探究科

地域の様々な人を講師として招いて「地域人」としての生き方を学んだり，小学校・病院・福祉施設などで実習を重ねる中で人と触れ合う職業の価値観を学ぶことを通して，自己の在り方・生き方を考えながら，社会や地域の課題を発見し解決していく探究的な学習者「探究人」としての資質・能力を育成する学科である。

イ　アグリビジネス科

地域農業の発展に貢献できる資質や能力を身に付けた人材の育成を目指して，学科におけるマーケティング分野や商品開発分野に係る学習内容を充実させるとともに，学科の特徴を活かしたパンの製造・水耕野菜の栽培など本校のオリジナル商品を検討・創出し，農業の６次産業化に関する学習を通して起業家精神の養成を図る学科である。

２　研究の概要

(1) 学科等の特色を生かしたカリキュラム開発の重点目標

地域を支えていく人材の育成を図るため，本校が示す「探究課題を解決する取組を通して育成する具体的な資質・能力」の向上を目指す地域協働教育カリキュラムを開発する。

具体的には

ア　「まち」プログラム：集う場づくりから地域活性を図る。
イ　「ひと」プログラム：人と出会い学ぶ場づくりから人材育成を図る。
ウ　「しごと」プログラム：地域を興す場づくりから職業観の育成を図る。

という３つのプログラムに特化した学校設定科目において課題発見・解決学習を行うとともに，総合的な探究の時間「課題探究」においてそれらの成果を束ね，地域活性化のための新たなアイデアや持続可能な取組を創出す

る。また，これら一連の取組による生徒の資質・能力の向上を検証する。

⑵　３年後の目指す学校の姿

「探究的な学習」を総合的な探究の時間「課題探究」を中心に展開するとともに，持続可能なコンソーシアムをもとに地域全体で開発した「地域協働カリキュラム」を活用する。これにより，生徒一人一人が主体的に地域の課題発見・解決に取り組むことが可能になり，多様な価値を認め，他者と協働して困難なことにも果敢に挑戦して，地域に新たな価値を創造する力を育成することができる。

また，教員も，探究学習カリキュラムに誇りと自信を持ち，生徒の資質・能力を開花させる探究学習を，総合的な探究の時間だけでなく，教科横断的な視点で全ての教育活動において実践する。それらの学習成果をポートフォリオとして蓄積していくことで，生徒一人一人の「資質・能力」の変容を学校全体で分析・評価し，好循環のＰＤＣＡサイクルを生み出すことができている。

⑶　令和３年度の目標

ア　アウトプット（活動指標）

・学校経営計画をもとに，探究科，アグリビジネス科それぞれの３年間の段階的な到達目標を示した「学科経営計画」が作成されている。
・学校として育成を目指す資質・能力についてルーブリックを作成し，それをもとに作成されたポートフォリオが，総合的な探究の時間・各教科の授業それぞれに蓄積され，生徒一人一人がファイリングして教室に並べられている。

イ　アウトカム（成果目標）

・ルーブリックによる「判断力」の評価結果がレベル３以上である生徒の割合が 60%以上になっている。
・ルーブリックによる「探究力」の評価結果がレベル４以上である生徒の割合が 10%以上になっている。
・授業評価アンケートにおいて，「主体的・対話的な学び」が身に付いていると自ら実感している生徒の割合が 70%以上になっている。

⑷　令和３年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

ア　カリキュラムの核とする教科・科目等名

総合的な探究の時間「みつや学」（１年次「産業社会と人間」２・３年次「課題探究」）

イ　カリキュラム開発の概要

（ア）１年次「産業社会と人間」

「探究的な学びの基礎づくり」をコンセプトに，大きく２期に分けて実施した。前半（４月～７月）は２年次以降の選択科目受講に備えたキャリア学習，後半（９月～３月）は探究的な学びの基礎的カリキュラムを展開する。

（イ）２・３年次「課題探究」

「医療」「教育」「伝統芸能」など，自らが選択したテーマについて，ゼミ形式で授業を展開し，決定した探究テーマに関する探究の実践を行うカリキュラムを構築した。１学期は，２・３年生合同で取り組む時間を設け，３年生が同じ探究分野に所属する２年生に対して，これまでの経験を活かし自身やグループに対して知識等の伝授を行い，２年生の課題探究に係る活動が円滑に進むようアドバイザー的役割を担うことで，協働的に学びを深めつつ，異学年間における縦の関係を創り上げることを目標とした。

ウ　校内体制

カリキュラム開発を全教員が参画して行うために，担当者全員が参加する「産業社会と人間」小委員会及び「課題探究」小委員会を活性化させた。

「探究科推進委員会」を月に１回定例開催することで探究科全体をマネジメントした。また，年間計画及び目標と照らし合わせた各カリキュラムの進捗状況を確認し，各小委員会においてそれぞれの科目に係るパフォーマンス課題やルーブリックの検証を行い，問題点・改善点の共有を図った。

⑸　学習評価

ポートフォリオを毎学期，全授業で１枚作成し，年間で計３枚のポートフォリオを蓄積して評価を行った。

⑹　カリキュラム評価

蓄積されたポートフォリオを全教員参加の研修会にて検証し，「資質・能力」及びそれらを評価するルーブリ

ック，さらには実施回数などを総合的に議論し，次年度への改善策を見出した。さらには，各学期ごとに実施される授業評価アンケートより，生徒自身の「資質・能力」への意識及びその成長の実感を調査した。

３　令和３年度の成果及び課題

(1) 成果

みつや学（１年生は「産業社会と人間」，２・３年生は「課題探究」）における１・２年生のルーブリックによる「判断力」の評価結果がレベル３以上である生徒の割合が１年生は57.3%，２年生は54.7%，３年生は69.3%であり，平均すると当初の目標である60%に達している。また授業評価アンケートにおいて，「主体的・対話的な学び」が身に付いていると自ら実感している生徒の割合が86.0%と，当初の目標を大きく上回った。

また３年生の「卒業論文」において，「文学・伝統芸能ゼミ」に所属した生徒が，文学作品中の登場人物の人物像を多角的に分析し，現代人との比較・考察を行ったり，「医療ゼミ」に所属した生徒が，医療に従事する看護師が陥りやすい複数の依存症について研究しながら自らの目指す看護師像を描き出すなど，質的にも３年間を通して多面的・客観的なものの見方・考え方が着実に身に付いていることが読み取れた。

(2) 課題

ルーブリックによる「探究力」の評価結果がレベル４以上である生徒の割合が 10%以上になることを目標に設定したが，実際には4.2%と目標に大きく届かなかった。本質的な問いに直結する重要な資質・能力であると捉えているが，未だに校内でも定義が定まっておらず，今後も議論が必要であると感じた。

また，学習成果発表会における各学年の発表を見ても，確かに上記のように課題に対して独自の判断を下し，自分なりの考えを表現することには一定の成果が見られるが，その根拠となる情報を精選・分析し，実証的に論理を組み立てるといった「情報収集力・分析力」においては依然として課題がある。また感染症が拡大したため，地域での取材ができなかったことが影響し，情報源がインターネットなどオンライン情報に偏っており，自らアンケートを作成したり，文献研究を重ねるといった研究のスタイルが未熟であることは否めない。

４　令和４年度の目標及び取組内容

(1) 令和４年度の目標

ア　アウトプット（活動指標）

・各学科の学科会（探究科では「産業社会と人間小委員会」及び「課題探究小委員会」）が定期的に開催され，学科経営計画の初年度における目標値を達成している。
・研修会・学科会においてルーブリックで設定されている資質・能力について議論がなされ，より生徒の実態に即したものになるよう議論されている。

イ　アウトカム（成果目標）

・ルーブリックによる「情報収集力」の評価結果がレベル３以上である生徒の割合が60%以上になっている。
・ルーブリックによる「判断力」の評価結果がレベル３以上である生徒の割合が80%以上になっている。
・ルーブリックによる「探究力」の評価結果がレベル４以上である生徒の割合が10%以上になっている。
・授業評価アンケートにおいて，「主体的・対話的な学び」が身に付いていると自ら実感している生徒の割合が90%以上になっている。

(2) 令和４年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

ア　カリキュラム開発の概要

（ア）１年次「産業社会と人間」

「探究的な学びの基礎づくり」をコンセプトに，前半（４月～７月）は２年次以降の選択科目の受講に備えたキャリア学習，後半（９月～３月）は探究的な学びの基礎的カリキュラムを展開する。特にアグリビジネス科とのコラボ授業においては，実施時期や指導体制を大きく見直し，探究科・アグリビジネス科それぞれに探究的な意義のある講座にする。

（イ）２・３年次「課題探究」

「医療」「教育」「伝統芸能」など，自らが選択したテーマについて，ゼミ形式で授業を展開し，決定した探究テーマに関する探究の実践を行うカリキュラムを構築する。1 学期は，２・３年生合同で取り組む時間を設け，３年生が同じ探究分野に所属する２年生に対して，これまでの経験を活かし個人やグループに対して知識等の伝授を行い，２年生の課題探究に係る活動が円滑に進むようアドバイザー的役割を担うことで，協働的に学びを深める。特に異学年間における縦の関係については，発表を行う当該学年のプレゼンテーション能力を

向上させるとともに，発表を聴いて評価する側の学年の生徒たち自身で「聴く力」や「質問する力」について議論を深め，相互作用として議論の質を向上させることを目標とする。

イ　校内体制

本年度は「探究科推進委員会」を月に１回定例開催することで，年間計画及び目標と照らし合わせた各カリキュラムの進捗状況を確認したり，各小委員会においてそれぞれの科目に係るパフォーマンス課題やルーブリックの検証を行うなどのカリキュラム・マネジメントを行ってきたが，こういった委員会に頼らず，組織的・機能的にマネジメントできる組織改革を学校全体で行う。